

3. その他の考慮すべき事項

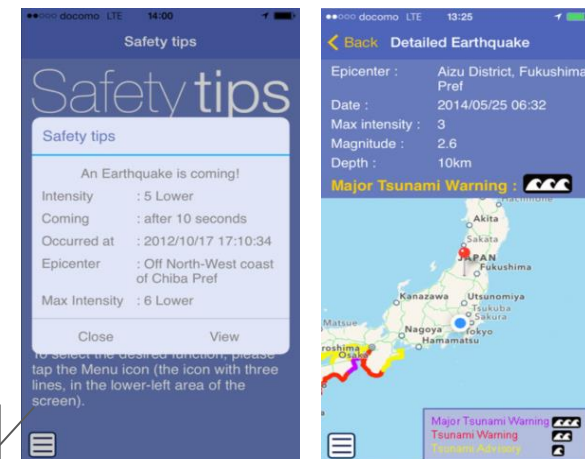
平成29年2月

3-1. 提供する情報の分かり易さ

外国人利用者への配慮

現状・課題

- (1)既存の防災アプリにおいて多言語化対応しているアプリは少ない。これは、防災情報の多言語化の取組として、緊急地震速報・津波警報については、多言語辞書が作成されているものの、他の防災情報については正確な辞書が整備されておらず、機械翻訳や辞書登録において課題があることが一つの理由となっている。
- (2)国土地理院から英語版の大縮尺背景図(地理院タイル)が公開されているほか、グーグルマップでも英語版が公開されているが、防災情報(避難場所情報、ハザードマップ等)の多言語化には未対応のものが多い。
- (3)外国人は特に地理不案内であり、直感的な認識が可能な地図表現が必要である。



観光庁「Safety tips」

緊急地震速報、地震情報、津波警報、気象警報、噴火警報等の情報を英語・中国語(繁・簡)・韓国語で提供

方針・方策

- (1)避難支援アプリで利用頻度の高いと想定される用語(津波浸水想定エリア、指定緊急避難場所等)の多言語化が求められる。
- (2)外国人にわかりやすい地図表現を検討し、直感的な認識が可能なピクトグラム等の地図表現を採用して、アプリに表示することが望ましい。



JIS規格の図記号

3-1. 提供する情報の分かり易さ

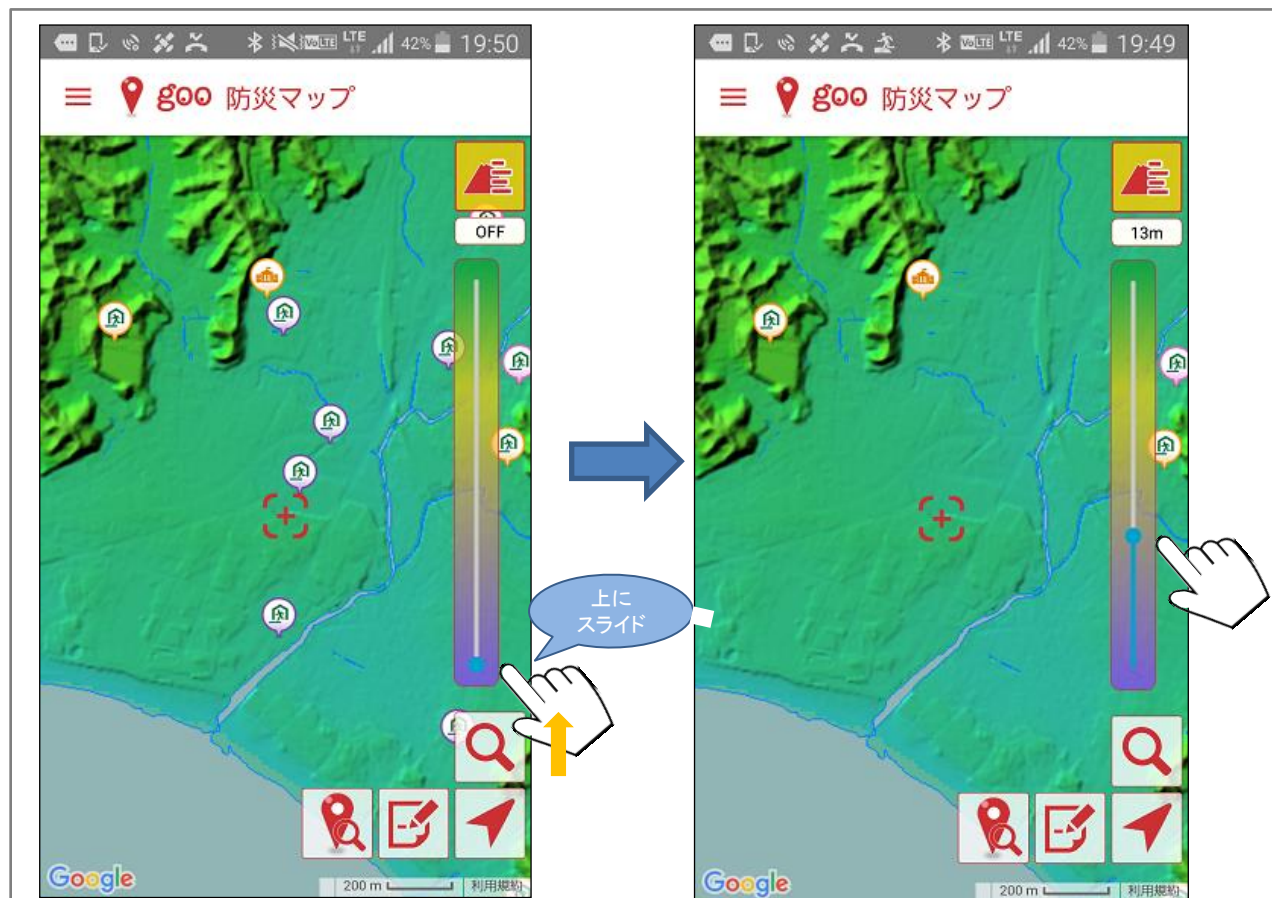
分かり易い機能

考慮すべき事項

- (1)利用者ヒアリング調査の結果、多機能な防災アプリよりも操作が簡便なシンプルなアプリが求められていることから、短時間で理解できるよう、可能な限り機能操作は少なく、分かりやすい画面表示・地図表現とすることが望ましい。

方策事例

- (1)標高を分かりやすく表示
 国土地理院色別標高図を表示、浸水範囲と切替機能を用意して避難先・避難方向を判断
- (2)標高スライダーによる地物の絞り込み
 全地物には標高データが付与されており、標高スライダーを上げ下げすることで、表示する地物を標高別に絞り込み可能



goo防災アプリ (NTTレゾナント株式会社)
 国土交通省主催防災アプリコンテスト 防災アプリ賞受賞
 (平成26年、平成27年、平成28年度)

3-2. 通信障害時の対応

通信状況の表示・データの一時保存

現状・課題

- (1) 携帯端末は、位置情報(GPS情報を除く)、背景地図データ、津波浸水想定図データ、津波警報等の情報をデータ通信で入手しているため、通信障害時に、これらの情報を取得できない。
- (2) 避難中に、通信障害が発生した場合には、最新の(または更新された)防災情報が入手できない可能性がある。
- (3) 既存のアプリには、一定程度の周辺の地図データを一時保存(キャッシュ)して、通信障害時にはキャッシュ情報を利用してあるものがある。(GPSは通信障害時でも利用可能)

方針・方策

- (1) 通信障害の状況であること、情報の最終取得時点等を端末画面に分かりやすく表示する。
- (2) 利用端末の容量負担を考慮し、アプリ起動時や一定時点毎に周辺の地図データをキャッシュすることを推奨する。

データ取得時点の表示イメージ

